

變つた男で、其まゝ南へ取つて参りまして、一心寺へ遣つて來ますと、お寺の門前に坊さんが掃除をして居ります所へ、彼の男が辨當を擔^{かた}げて、さく／＼と参りました。(囃子ぜん)

「エ、モーション、チョットお墓を」

「ハイ、お詣りかな、ハイ／＼御參詣なされ」

「イヤ、おほげに、本堂には用事が無い、墓場へ」

一心寺の墓場へ参りますと、石碑が澤山並んで居ります。

「イヨ……、仰山石碑が有るわい、何處で一杯飲んでやる、マテヨ同じ飲むのなら、色氣の有る石碑の前で飲みたいなア、此石碑は大きいなア、ナンヤ、千田川留吉か、こら角力取や、角力取では色氣がない、こつちに有るのんわ、俗名小糸、ナンヤ小糸と、こら女や、此石碑の前で一杯飲……どつこいしよ、へエ、小糸はん今日は、私い、ヘンチキの源助と言ふ者だす、皆が花見に行きますので、私いは、墓を見て一杯飲みたいので來ました、貴女の石碑の前をチョット拜借します、へエ御馳走は持つてます、しゅびん酒の、おまる辨當、一ツ酌ぎますせ、御免やす(トツ／＼／＼)へエ、ナニ、私に、毒見をせいと、ア、左様か、それではお先へ頂戴いたします、アノ美味何とも言へんなア、へイ御免、石碑は物を言はるので便りないな、石碑の上からお酒をかけとこ、お看は生鰯に、からすみ、一ツ如何だす、ナニ私に、イエ酌いで貰わひでも勝手に酌ぎます、獨酌で、

トツ／＼／＼チリマス／＼、けども貴女等徳だすなア、毎日此んな閑靜な所で暮してなアるが、私等あきまへんは、へエ、もう一ツ御めん、へエ、ナニ、拳、あきまへんわ、さつぱりへボだす、是非左様か、そんなら、拳負、負飲宜ろしいか、一ばい酌いで置きまつせ、負たらグウと飲みまんねでへいお手柔かに、ハア、ボンボンボン、チョットハ、ソワナイ、ドンドン、チョイ／＼、一二の三それ食けた、負飲、左様か、さつぱりわや……」

一人で拳を打つて、一人で酒を飲んで居りましたが、好い心持に酔ひが廻つて來ましたので、餘り日の暮れぬ中に歸らうと、横手に有ります塔婆の根元を見ますと、土がコンモリ盛上つて居ますので、塔婆を持つて來て、グイとこぜ上げますと、髑髏がゴロリと出ました。

「ア、吃驚した、髑髏や、けども、墓原から髑髏の出るのは、別に不思議な事は無い、併し、一休と云ふ坊んさんは宜い事を云ふたで、骨隠す皮には誰も迷ふなり、好も嫌ひも皮のわぎなり、そらそらうや、別嬪やのへチャやのと言ふても、死んだら皆此通りや、皮が有ればこそ、別嬪へチャの區別がつくねん、併しこの骸骨欲しいなア、持つて歸つて遣ろかしらん、床の置物に、奇麗に磨いて煙草入れの根附に仕たら遣へんチキやなア、髑髏の根附や、あら野晒の源助やと、二つ名が付くやうなア、今誰も見て依れへん、今の内に持つて歸ろう」

と髑髏を手に取上げましたが、何と無う氣持が悪ひので、下へ髑髏を置いて